

事業名：子どものための読書環境整備事業（学校図書館支援事業）

情報図書館 主査（奉仕・事業）

政策	05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実								
施策	01 子どもの可能性を伸ばす教育の充実								
基本事業	01 教育内容の充実								
開始年度	平成18年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内小・中学校

手段（事務事業の内容、やり方）

- ・学校図書館の活動を支援し、学校内の読書環境を整備するため、学校司書を学校図書館へ巡回配置する。
- ・学校図書館の本の分類や修理といった基礎的分野の支援を実施するとともに図書館運営の相談に応える。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

学校内における読書環境の整備が図られ、より多くの子どもたちが本に親しむことができる。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市内小・中学校数	校	27	27	27	27
対象指標2						
活動指標1	司書配置学校数	校	2	6	15	9
活動指標2						
成果指標1	司書配置によって増加した貸出冊数	冊	2,907	2,042	8,236	5,000
成果指標2	司書配置期間のボランティア活動回数	回	33	81	69	40
事業費(A)		千円	3,955	3,839	5,126	5,264
正職員人件費(B)		千円	642	802	1,172	2,738
総事業費(A+B)		千円	4,597	4,641	6,298	8,002

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書による学習支援 ・支援司書による学習支援 ・学校司書による学校図書館の環境整備への支援 ・学校図書館ボランティアとの協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤職員報酬 4,861千円 ・資料購入費 100千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの読書活動の推進に関する法律」の制定（平成13年12月5日成立）。 ・「文字・活字文化振興法」の制定（平成17年7月）。 ・平成18年度に「江別市子どもの読書活動推進計画」を策定。 ・平成25年度に「第2期江別市子どもの読書活動推進計画」を策定。 	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
妥当である 妥当性が低い	理由 根拠
図書館法、学校図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法なども定められており、妥当と考える。	
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
貢献度大きい 貢献度ふつう 貢献度小さい 基礎的事務事業	理由 根拠
将来にわたって個々人の学習意欲を高めることや、客観的な物の見方や判断力を養うことができ、また、ボランティア活動の活性化が図られるなど貢献度は大きい。	
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
上がっている どちらかといえば上がっている 上がらない	理由 根拠
小・中学校の学校図書館への巡回により配置した学校司書の活動が貸出冊数の増加や学校図書館の環境整備や活性化につながっている。	
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小・なし	理由 根拠
巡回する学校司書を増員することで市内全小・中学校に配置できれば成果は向上する。	
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
ある なし	理由 根拠
18年度から始まった事業であるが、常に資料整備を進め、また学校司書を充足させる必要があり、コスト削減は難しい。	